

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のもので)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3091500086		
法人名	社会福祉法人守皓会		
事業所名	グループホーム愛宕苑 [第2ユニット]		
所在地	有田市港町29-1		
自己評価作成日	平成25年5月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/wamapp/hyoka/003hyoka/hyokekka.nsf/aOpen?OpenAgent&JNO=3091500086&SVC=0001096&OC=01
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成25年6月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム愛宕苑独自の目標を全職員が心がけ、入所者だけでなく、家族も交えた笑顔作りを目指しています。地域密着に力を取り入れており、去年より始めた秋祭りは家族だけではなく、近隣住民も交えた交流を行っています。また環境整備にも力を入れており、室内、室外の清掃はもちろん、入所者の手伝いも含めた花壇の清掃を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道に面した2階建2ユニットのグループホームで、同法人のケアハウス、特別養護老人ホームも近くに併設されている。系列法人の協力医療機関とは密に連携が取られ、医療面での協力体制が築かれており、重度化や看とりにも前向きに取り組んでいる。地域交流への取り組みとして昨年開催した秋祭りでは地域住民の参加も得られ、入居者・家族も交えて交流を深めることができ、準備段階からの取り組みを通して職員の地域交流への意識も高まった。居間の窓からも飾りのついたお堂の屋根が見える赤岩観音は地域の人に親しまれており、入居者とよく出かけてひと時を過ごす場となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人一人が法人の理念、グループホーム独自の目標を目指す為に、理解し実践につなげている。また、「笑顔でのあいさつ」「清潔」を心がけ、毎朝の朝礼にて職員同士が注意しあっている。	朝礼で理念を唱和し共有を図っている。入居者一人ひとりを大切に、笑顔が見られるよう接し、地域との関係作りを念頭に近所の人への挨拶、声かけを心がけて、理念の実践に努めている。	朝礼での唱和だけでなく、意識付けができるよう、具体的に確認し合い、理念に基づいたケアの実践に繋げることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	秋祭りにおいては地域住民へ回覧板を回し、多くの近隣住民が参加頂き、交流を深めている。また今年度は去年よりも規模を大きくする為に努力している。	地域交流の一環として昨年の秋に開催した秋祭りでは、入居者や家族、近隣住民との交流の場とすることができた。準備を通して職員間の絆も深まった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の周辺症状等について、随時連絡し、専門的な用語は出来るだけ使用せず、わかりやすい説明を行い、理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入所者、家族、職員が集まり、半年に1回運営推進会議を開催し、双方の意見を聞き今後のサービスに反映する。	近隣住民、市の担当者がメンバーとなって開催されていて、内容は報告事項が中心である。	開催方法やテーマの工夫で多くの意見を集めて会議を活用できることが望まれる。民生委員や自治会の代表者等にも協力を仰ぎ地域の拠点としての役割も担えることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	苑の入退所報告や地域包括支援センター、介護保険課との情報交換を行い、交流を深めている。また、空室情報も定期的に情報提供している。	市の担当者や地域包括支援センターとの関係は事務的なことが中心ではあるが、情報交換を行うことから協力関係の構築を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ推進委員会を設置し、毎月開催している。ユニット玄関は常時開放しているが、建物の正面玄関は国道に近いこともあり、ロック解除をしないと開かない仕組みとなっている。特に夜間帯は各ユニット別の職員が定期的に施錠を確認している。	家族にも説明し拘束なしで対応できるよう取り組んでいる。入居者を交通事故から守るため建物の正面玄関はやむをえず施錠している。入居者の事故を防ぐため階段には良く目立つ形状の門扉が取り付けられている。	安全確保しつつ抑圧感のない自由な暮らしを支援するために、どのような支援が必要か話し合い、拘束のないケアの実践に向けての個々の職員の意識がより高くなることが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する外部研修に参加し伝達講習を行う。また職員が入所者に誤って怪我をさせた時など、早急に介護指導を行い技術を向上させ、職員1人1人が利用者安心していただける環境を提供する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修・勉強会に参加し、知識を深め、支援に活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、管理者を通じて、入所者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分説明を行い、理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には電話連絡時や面会時、またグループホーム行事に参加された際に要望や不満などの意見を聞くようにしている。また、意見箱を設置して、投函できるようにし、それらの意見を事業運営に反映させている。	家族の訪問時に必要に応じて意見を聞き、コミュニケーションを取る様になっている。特に、秋祭りの行事については次回に活かすために家族の声を聞くようにした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を行い職員の意見や提案を聞いており、また、職員個々との面談時にも意見や要望を聞いて反映している。	職員意見を出せる場としての2ユニット合同の会議だけでなく、日常的に、管理者やユニットリーダーは職員の声を聞き、運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績は人事考課を行い、昇給や賞与として反映している。また、定期的に職員個々との面談を実施し職員環境や悩み相談を把握するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月勉強会を2回実施し、職員の個々のスキルアップが図れるよう努力している。また、新人職員に関しては法人全体の新人研修を実施し、各部署においてマニュアルをもとに指導・育成を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での施設同士でネットワーク作りや勉強会の機会が設けられている。また、近隣事業所への挨拶まわりや地域で行われている研修などに参加するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査には管理者、介護支援専門員が必ず同行し、入所者の不安や要望に耳を傾けるように努めている。また、入所初期には情報収集を入念に行い入所前の生活環境に出来るだけ近づけるように本人の希望も多く取り入れ職員間で検討しあっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設利用間もない入所者の家族からの要望や悩みを傾聴し不安を解消出来るようなサービスを提供する。また、事業所として出来ること出来ないことを明確に説明、話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査の情報とご家族の情報などを元にケアプランの原案を作成している。その中でまず最優先されるサービスをチームで考え、ひとつずつ丁寧に利用者が満足できるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のような関係性を築き、介護者からの一方的な支援ではなく、ともに炊事、洗濯、掃除や、散歩、買い物、水やりなど、入所者様が興味のある事を本人の出来る範囲で一緒に支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来苑された時を大切に、必ず近況報告を行うようにしている。また苑の行事には、家族の時間が合えば入所者と一緒に過ごしていただけるように声かけしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人情報に注意しながら、今まで通っていた美容室の利用、馴染みの方の面会、馴染みの場所への外出、居室にも懐かしい家具を持参して頂き使用している。	人や場所だけでなく、編み物や習字等、今まで続けてきた習慣を継続できる場を持つことも、馴染みの関係継続ととらえて支援している。誕生日には外食等、家族と共に過ごすことができるよう働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や感情の変化を理解した上で、入所者同士の間に入り、コミュニケーションが取り合え良好な関係を築けるよう努めている。また、イベントやカラーセラピーなど入所者同士が交流できる環境作りを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も、入院された方については見舞い、電話連絡を行っている。他施設に入所された方については、面会へ行くことはあるも家族に対しては会えた時に挨拶する程度である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションや普段の様子から、一人ひとりの思いや希望など汲み取り記録し、スタッフ間で共有できるよう努めている。又、それをケアプランに反映させるようしている。	本人の声に耳を傾け、思いをくみ取れるよう努めている。担当の職員を中心に、センター方式を利用したアセスメントを行い、職員間での情報の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用と家族から情報収集を行い、その人の暮らしぶりを把握するようにしている。また、定期的に担当者会議を行い経過の把握が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用して24時間シートを作成。日々の暮らしの中で、出来ること出来ないこと等の把握をするようにしている。日々の変化を申し送りで伝達し、把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者がアセスメントシートを記入し、定期的に担当者会議、ケース会議を行い、本人、家族の要望と現状に即したケアプランを作成している。	アセスメントを基に計画を作成し、状態に変化が無ければ、半年に1回担当者会議を開き計画を見直している。モニタリングを毎月行っているが、毎回ほぼ同じ内容であり、計画への反映が見えにくい。	モニタリングは、環境、心理面等多角的な視点で計画に反映させ、入居者のよりよい暮らしを支援していけることが望ましい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気づきや工夫を個別記録に記入し、会議や申し送り時に常に職員間で情報を共有し、実践の見直しや介護計画の見直しに活かしている。また、見守りノートを使用し、訪問診療時にDr、薬剤師に現状を報告し医療機関との連携に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関に柔軟性を持たせている。また、個別レクリエーションを計画し、本人、家族の要望に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や自治会など地域にある資源との協力は積極的に行うよう体制を整えている。安全面では系列の病院を協力病院として24時間の医療体制を整え安全で豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所者、家族が希望する医療機関に受診することが出来るように支援している。また各週で訪問診療による受診を支援している。	受診は本人や家族の希望を尊重しているが、送迎等の家族の負担が少ない系列法人の協力医療機関に変更する人が多い。協力医療機関との連携は密に取られており、医療面での安心が提供されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設している訪問看護ステーションより週1回健康チェックを受けている。入所者の状態や情報、気づきを報告し、入所者急変時などにはすぐに連絡できるよう日頃から看護師と関わりを持ち体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを持参し入所者の情報提供をしている。定期的にお見舞いに行っており、病院、家族との情報交換、関係作りに努めている。また、連携している桜ヶ丘病院以外に入院した際も報告、連絡を怠らず情報の共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項の説明時に看取りに関する方針と支援内容について説明している。また、看取り介護の勉強会を行い介護職員の方針や対応を共有するよう努め、必要な段階時には家族、主治医、看護師と十分な話し合いを行い、チームとして取り組めるよう努めている。	看とりの経験は無いが、この4月から協力医療機関による24時間体制での支援を受けられる体制となっており、家族の希望があれば積極的に看取りに取り組む方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会等で急変時や事故発生時の訓練を行っており、医療機関への連絡方法や一連の流れを全職員が把握・実践できるよう努めている。また、施設職員の緊急連絡体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回行う訓練に地域住民や利用者にも参加してもらい、施設の実態を把握してもらうよう促している。また隣接する施設に3日分の非難食を備蓄している。	火災訓練と津波避難訓練を行って災害に備えている。入居者も加わり、地域住民と一緒に、シーツを利用した担架での訓練も行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライベートスペースは入所者の希望にて居室ドア部分に目隠しを貼りプライバシーに配慮している。個々の力に応じ、声かけや対応を行っているが、プライバシーを損ねるような対応にはならないよう努めている。また、個人情報については必要な情報提供や居室の名札の明示など書面にて同意を得ている。	居室ドアの一部が以前の透明ガラスになっている部屋があるが、そのままにしておいてほしいという入居者の希望によるものである。入居者との買い物等の外出にはプライバシーに配慮して職員も私服で出かけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションや日常生活の中から入所者の要望を出来るだけ受け入れるようにしている。また、職員の一方向的な支援や介助を行わないように努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者に無理なく出来ることを手伝ってもらったり趣味を生かした生活を支援している。起床や入浴は希望の時間になるように努め自分のペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所者の意思決定で衣類を選んでもらい着てもらい、職員が常に入所者の衣服の乱れや髭そりなどの身だしなみを確認するように心がけている。希望者には第2・4月曜日には訪問理容サービスを受けることができる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理が可能な入所者には調理を手伝って頂き、自分のペースで食事ができるよう十分な食事時間を取っている。日曜日、誕生日には入所者の希望する献立を立てている。定期的に個別で外食に行くなどの支援している。	管理栄養士がメニューを作り、食材は入居者と買い物に行っている。準備、調理、片づけはほとんど職員が行っているが、職員も共にテーブルにつき、一緒に食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立をベースにして作成している。栄養面への配慮をし、体重表の管理、食事、水分量を毎日記録し把握している。食事や水分の摂取が困難な方に対しては、管理栄養士に相談し、連携をとっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後に一人ひとりの力に応じた口腔ケア支援を呼びかけ実施している。就寝時には義歯の管理、洗浄を行っている。協力病院との相談、受診を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の記録を行い、入所者個々に合わせたトイレ誘導を行い、清潔保持に努めている。また、定期的に排泄表を確認し、できるだけトイレにて排泄ができるよう誘導、支援をしている。	おむつの利用を減らすために、日中は布パンツとパッドを利用している。便秘を改善する為の食事や薬の使用も必要に応じて行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表をつけるとともに1日の水分量の把握をしている。便秘の方には医師に相談し服薬コントロールをしている。また、日常より乳製品の摂取、運動を促したり、腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴していただけるよう声かけしている。拒否される方、時間を希望される方等、個々に合わせ入浴をさせていただいている。A DLに合わせ中間浴一般浴を設置している。	入居者の希望の時間帯に入浴できるよう支援しており、夕食後に入浴する人もいる。1階には座った状態から入浴姿勢に移れる個浴の装置があり、状態や希望で一階と2階の浴槽を使い分けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、良眠していただけるよう個々の入所者の入眠時間を希望に沿う形で促しており、また、日中の活動時間を増やしていく支援を行っている。安眠につながるよう光や音が居室に入らないよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れなどの誤薬が起こらないよう、各職員が責任を持って服薬チェックを行い、リーダーがもう一度確認するなどの工夫を行っている。症状が変化した場合、医師、薬剤師へ報告し指示を仰ぐよう統一している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴等の情報収集を行い個々に合った用具や嗜好品を使用し楽しみを持って生活してもらっている。また職員は定期的に個々の情報を共有し把握、改善している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に外出するレクリエーションを企画している。各個人が希望する外出については家族に意向を伝え、計画し実現に向け努めている。外出や外泊は自由にすることができる。	近辺のドライブ、近くの赤岩観音での散歩以外に年2回程度外食の機会を設けて、数名ずつ出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所者が管理できる程度で少しの所持金を持っていただき希望時には一緒に買い物に行き欲しい物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話対応は予め家族に電話しても良いか意向確認している。できる限り入所者本人が自由に電話できるよう配慮している。手紙も利用者本人が書き家族面会時に渡すようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内だけでなく、施設回りの環境整備を徹底し整理、整頓、清潔にしている。1階ウッドデッキには季節感を実感できる花を植えている。また、過度な飾り付けをせず、季節の行事を取り入れた和やかな空間を作りだせるよう努めている。	ソファが置かれた畳敷きのスペース、一階のウッドデッキ、2階の廊下の突き当たりのソファスペース等、自由に寛げるスペースが用意されている。廊下の壁の絵や写真の額は安全性に配慮して入居者の手に触れない高い位置に飾っている。	時計、額などの装飾品は、入居者の目線や、視覚を考慮して配置することが望まれる。人ひとりの感覚を大切にしながら居心地の良い快適な暮らしができる空間づくりに期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に机や椅子を設置し入所者が独りになれる空間を作れるよう努めている。また、気の合った利用者同士を近づける、逆に不快な仲の利用者の席は離れるなどの工夫を取り入れている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室入り口のガラス戸には目隠しをし個人のプライバシーを確保する。居室内には使い慣れた家具や馴染みある物を持ってきていただけるよう呼びかけている。	入居者に合せて畳を敷いて使用している部屋もある。家族の協力が得られにくく、やや殺風景に感じられる部屋も多くみられるが、馴染みの写真やポスター等で居心地よく過ごせるその人らしい部屋となるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来ることを理解した上で、その人の力に応じた行動を見守り支援するよう努めている。また、歩行や車椅子スペースの確保、手すり、バリアフリーと自立した生活が送れるよう工夫した作りになっている。		